



子育て・教育・福祉部会資料

施策2-1-3 子どものすこやかな成長の促進

こども未来局
令和4年5月

資料をご覧ください。上での注意事項

掲載している数値等は、5月27日（令和4年度川崎市政策評価審査委員会第1部会の開催日）時点のものであり、今後、修正・変更になる可能性があります。

施策の概要

基本政策(1層)

子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり

政策(2層)

安心して子育てできる環境をつくる

施策(3層)

子どものすこやかな成長の促進

直接目標

子どもがすこやかに成長できるしくみをつくる

主な事務事業

妊婦・乳幼児健康診査事業

母子保健指導・相談事業

青少年活動推進事業

こども文化センター運営事業

わくわくプラザ事業

青少年教育施設の管理運営事業

実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

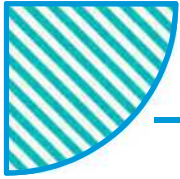
成果指標①		乳幼児健診の平均受診率			
算出方法	厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」の各年齢(3か月児・1歳6か月児・3歳児)における「(健康診査受診実人数/健康診査対象人数)×100(%)」の平均値				
指標の考え方	子どもがすこやかに成長できるしくみづくりに向けて、子どもの成長発達や育児状況を把握し、子育て家庭に適切な支援を実施するため乳幼児健診を実施しており、その受診率の推移を見ることで、取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	第1期策定時 97.2%(H26)	第1期目標 97.3%以上(H29)	第2期目標 97.3%以上(R3)	第3期目標 ※97.8%以上(R7)	
目標値の考え方	従来から高い水準にある3か月健診の受診率を踏まえ、政令指定都市トップの受診率を目標値として設定する。 ※令和2年度の実績値が第3期の目標値(97.4%)を上回ったため、第3期実施計画から目標値を変更しています。				
成果指標②		子育てが楽しいと思う人の割合			
算出方法	1歳6か月健診時における問診票で、「お子さんと一緒に生活はいかがですか」という設問に、「楽しい」と「大変だが育児は楽しい」と答えた人の割合				
指標の考え方	子どもがすこやかに成長できるしくみづくりに向けて、育児不安や育児ストレス、孤立感などを抱えた親子に対して、面接や訪問等の親支援を強化する取組を進めており、子育てが楽しいと思う親の割合の推移を見ることで、その取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	第1期策定時 97.5%(H27)	第1期目標 97.6%以上(H29)	第2期目標 97.7%以上(R3)	第3期目標 97.8%以上(R7)	
目標値の考え方	面接や訪問等を通じて、子育て家庭への支援を強化する取組を推進することにより、前期を上回る目標値を設定する。				



実施計画に位置付けた成果指標

成果指標③ わくわくプラザの登録率									
算出方法	わくわくプラザ登録者数／対象児童数								
指標の考え方	子どもがすこやかに成長できるしくみづくりに向けて、すべての小学生を対象として、放課後等に児童が安全・安心に過ごせる場づくりとして市内114校の小学校内でわくわくプラザ事業を推進しており、その登録率の推移を見ることで、取組の成果を測ることができる。								
指標の目標値	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1期策定時</th> <th>第1期目標</th> <th>第2期目標</th> <th>第3期目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>46.3% (H26)</td> <td>47%以上 (H29)</td> <td>49%以上 (R3)</td> <td>51%以上 (R7)</td> </tr> </tbody> </table>	第1期策定時	第1期目標	第2期目標	第3期目標	46.3% (H26)	47%以上 (H29)	49%以上 (R3)	51%以上 (R7)
第1期策定時	第1期目標	第2期目標	第3期目標						
46.3% (H26)	47%以上 (H29)	49%以上 (R3)	51%以上 (R7)						
目標値の考え方	より広く児童に対し、放課後における居場所と健全な遊びを提供すべく、R7(2025)までに過半数以上の児童の登録をめざすものとして、目標値を設定する。								

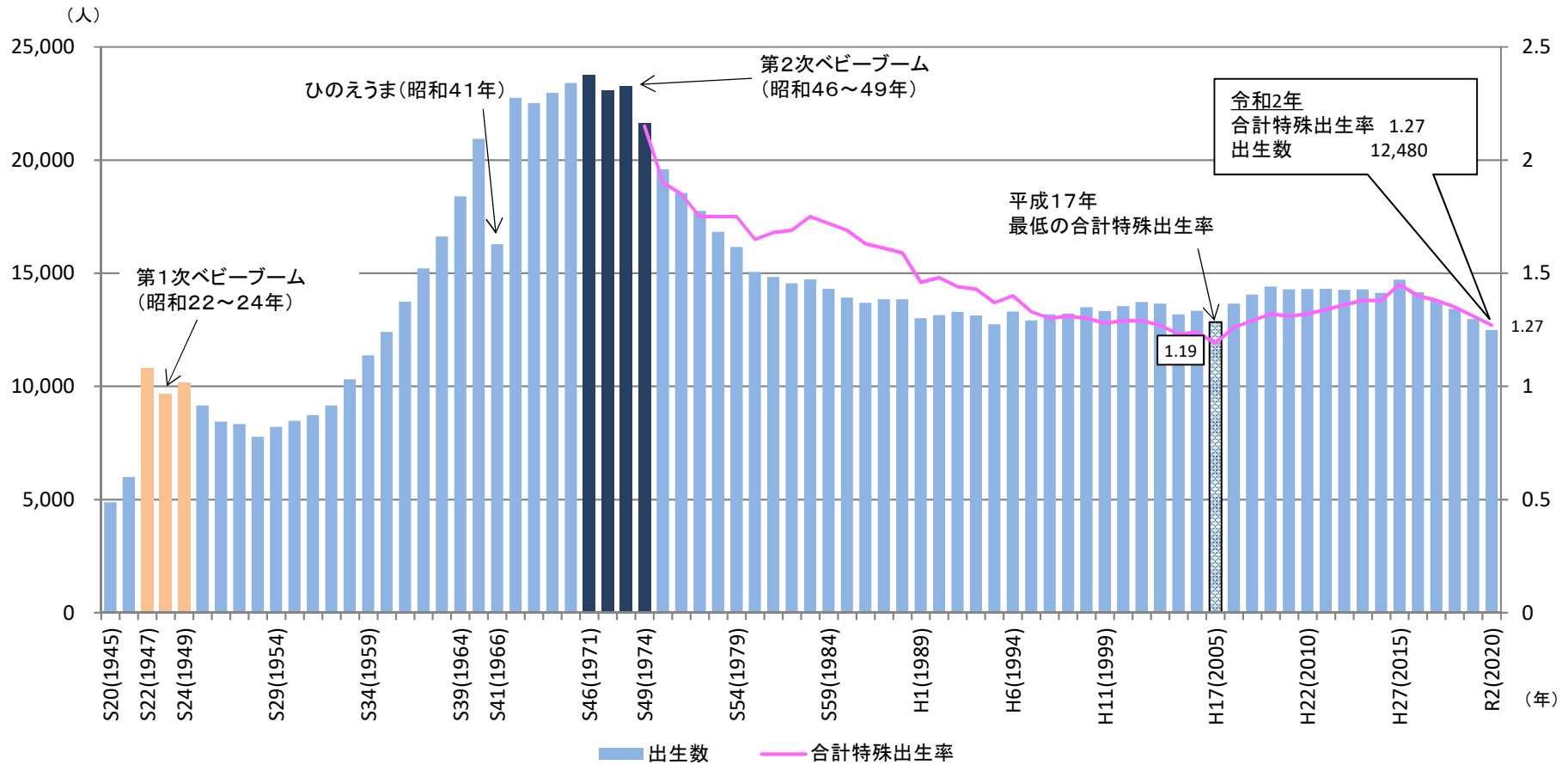
成果指標④ わくわくプラザ利用者の満足度									
算出方法	「わくわくプラザ利用者アンケート」(無作為抽出利用者2,000人)における各質問項目(10段階)の平均値 ※10点満点								
指標の考え方	子どもがすこやかに成長できるしくみづくりに向けて、すべての小学生を対象として、放課後等に児童が安全・安心に過ごせる場づくりとして市114校の小学校内でわくわくプラザ事業を推進しており、その利用者の満足度の推移を見ることで、取組の成果を測ることができる。								
指標の目標値	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1期策定時</th> <th>第1期目標</th> <th>第2期目標</th> <th>第3期目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.3 (H27)</td> <td>7.4以上 (H29)</td> <td>7.7以上 (R3)</td> <td>8.0以上 (R7)</td> </tr> </tbody> </table>	第1期策定時	第1期目標	第2期目標	第3期目標	7.3 (H27)	7.4以上 (H29)	7.7以上 (R3)	8.0以上 (R7)
第1期策定時	第1期目標	第2期目標	第3期目標						
7.3 (H27)	7.4以上 (H29)	7.7以上 (R3)	8.0以上 (R7)						
目標値の考え方	子育て家庭のニーズが多様化する中、放課後等に児童が安全・安心に過ごせる場づくりを進めるため前期を上回る目標値を設定する。								



川崎市の出生率の推移

- 川崎市の出生数は昭和46年をピークに減少傾向となっていましたが、平成元年ごろからほぼ横ばいとなっています。

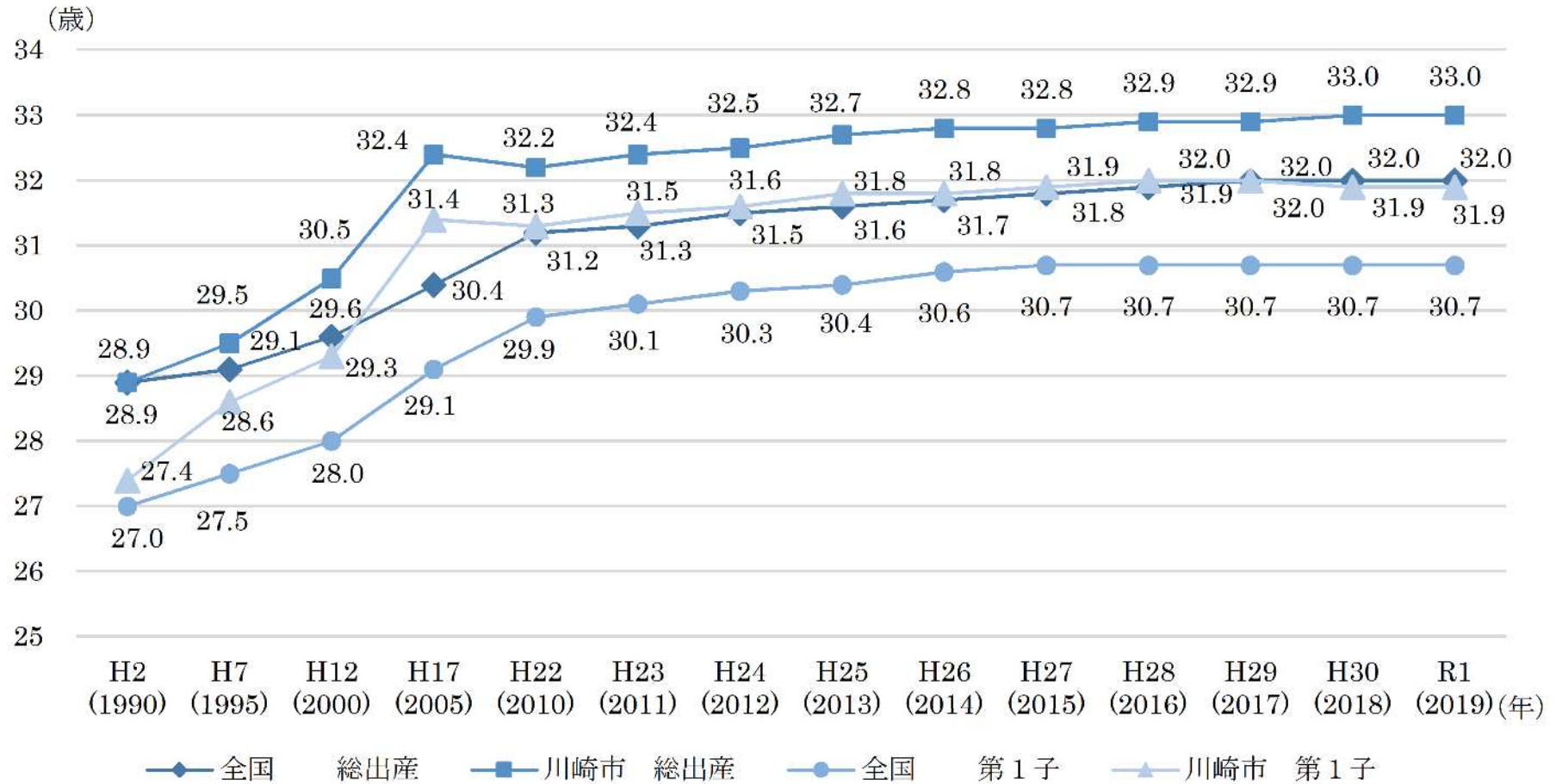
出生数と合計特殊出生率の推移(市)





平均出産年齢の変化(全国・川崎市)

- 本市の平均出産年齢は令和元年に総出産平均年齢が33.0歳、第1子平均出産年齢が31.9歳となり、全国の水準と比較して**晩産化**が進行している状況にあります。



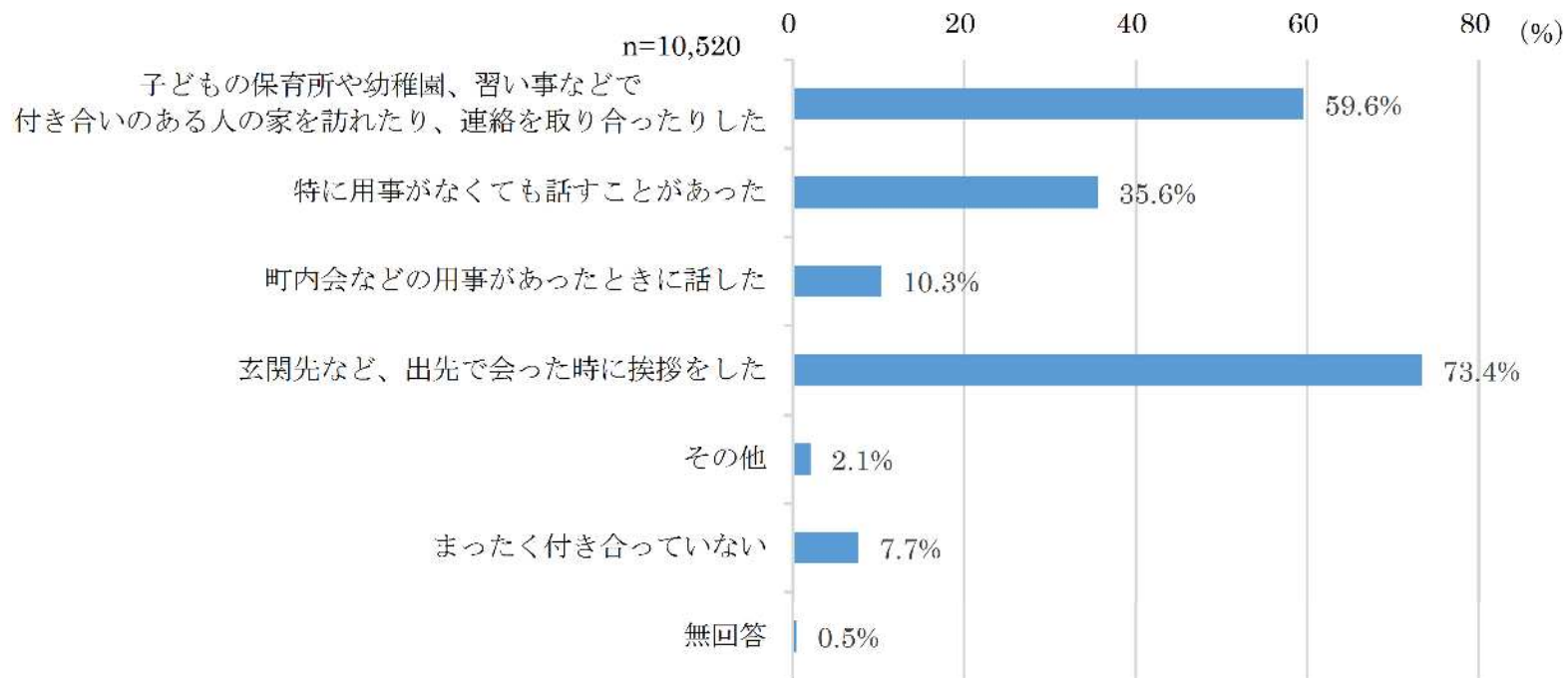
平均出産年齢の推移(国・市)



子育て世帯の近所づきあい

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 子育て世帯への調査において、近所の人との交流は「玄関先など、出先で会った時に挨拶をした」が73.4%で最も高く、7.7%は「まったく付き合いがない」と回答しており、一部の人は近所付き合いの程度が低い状況となっています。
- **晩産化・近所づきあいの希薄化**等により、妊娠・出産・育児に関して**支援をする家族や知り合いがいない**場合や、**知識・経験が不足**している家庭が増えていると考えられます。

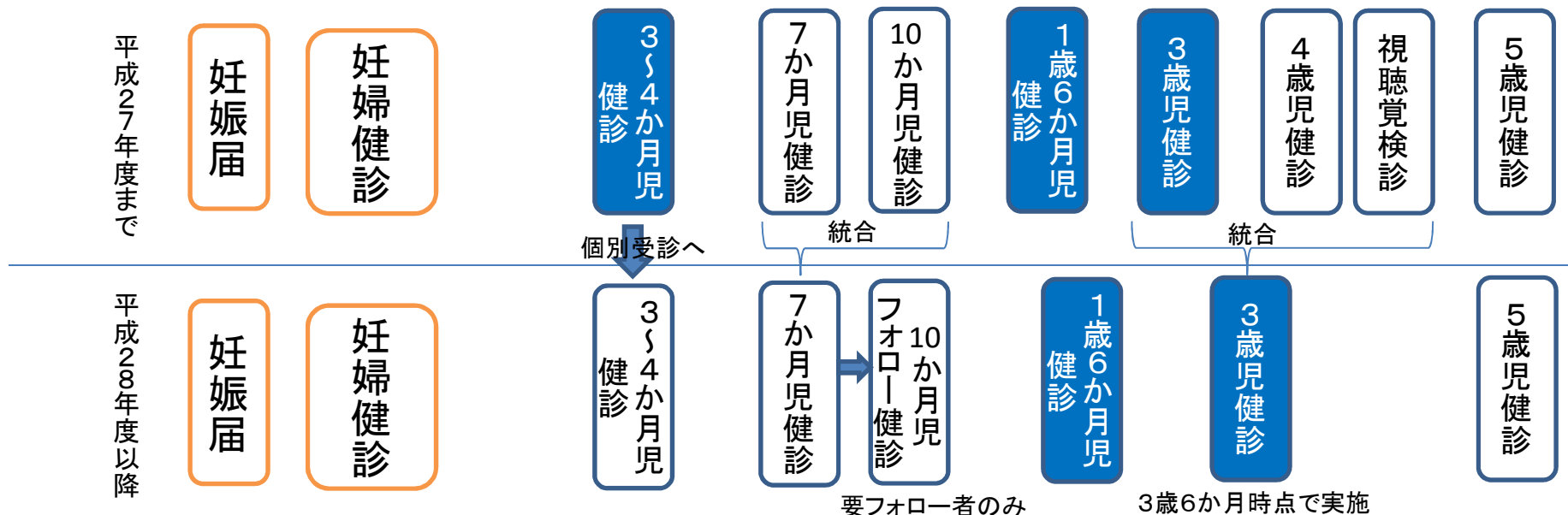


近所づきあいの程度(市)

川崎市子ども・若者調査(令和2(2020)年)

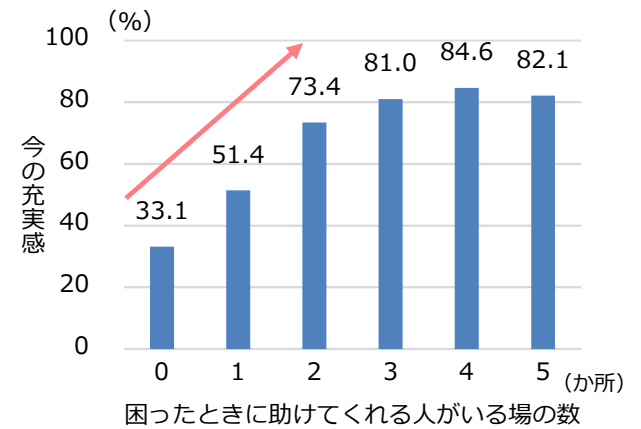
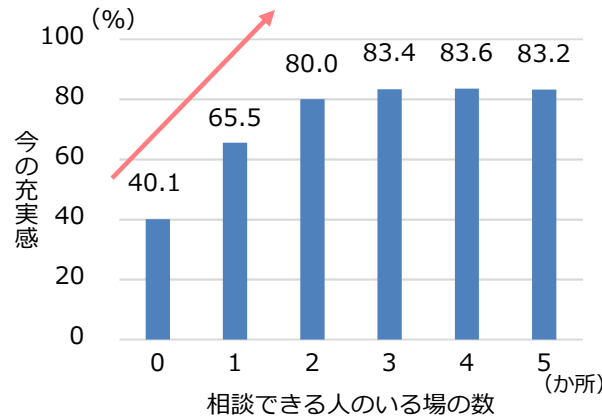
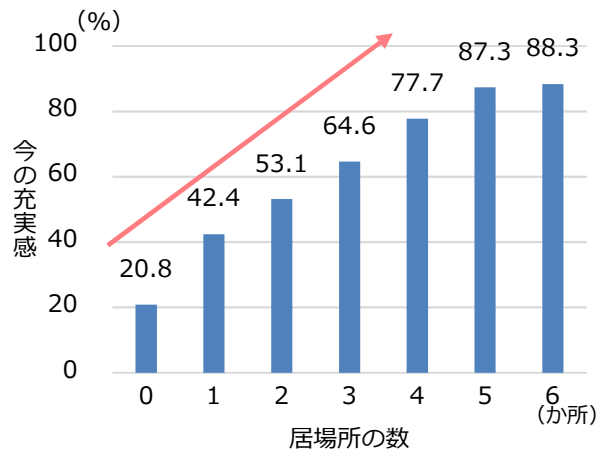
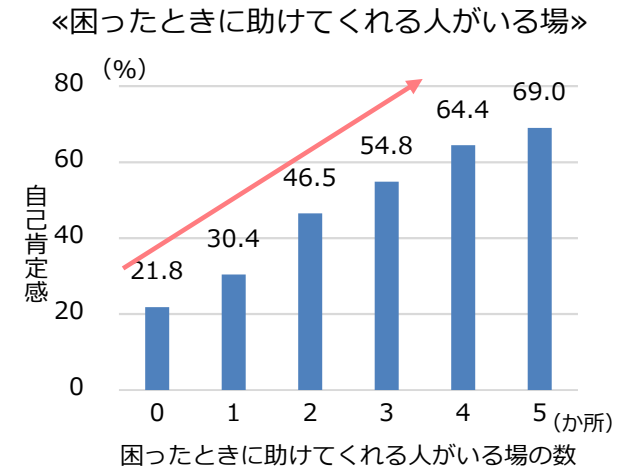
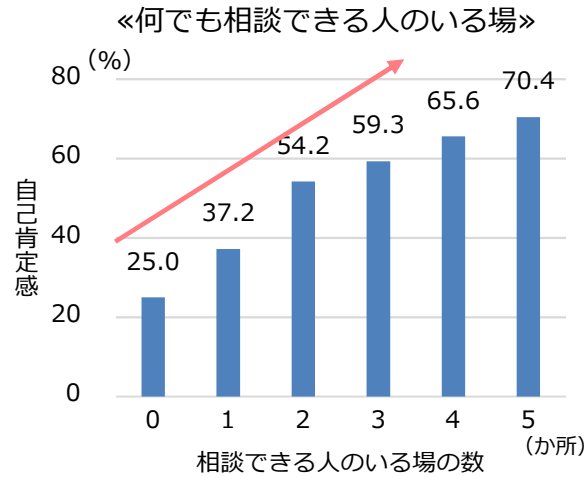
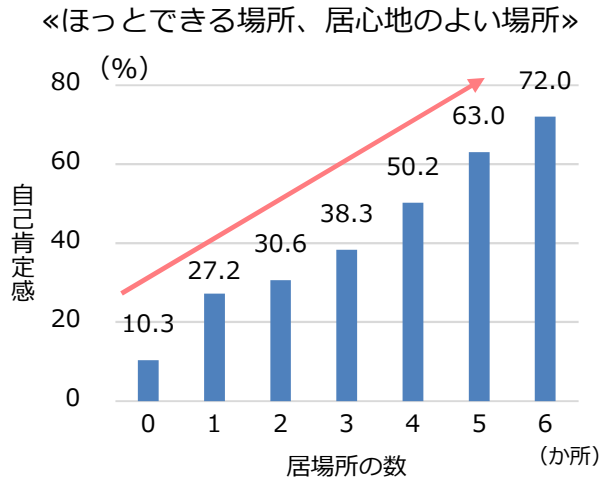
妊婦・乳幼児健康診査事業の再構築

- 川崎市の乳幼児健康診査は平成28年度に再構築を行いました。
- 集団でおこなっていた3～4か月児健康診査について、医学的確認の重要性が高い時期であることや、乳児期の予防接種の拡大を受け、かかりつけ医での個別受診に変更することにより、かかりつけ医で一貫して発達状況をフォローし、受診の結果に基づき、行政が医療機関と連携して支援を行います。
- その他、7か月児健康診査と10か月児健康診査を7か月児健康診査に統合し、フォローが必要なお子さんに10か月児健康診査を実施することにしました。
- 3歳児健康診査と4歳児健康診査を統合して3歳6か月時に健診を行い、早期発見・早期治療が必要な視聴覚の検診を早めて3歳6か月時点で実施することにしました。



若者の居場所と生活の充実感(国)

- ほっとできる場所、居心地のよい場所等になっている、何でも相談できる人がいる、困ったときに助けてくれる人がいると生活の充実感とでは、居場所の数の多さと自己肯定感、今の充実感の高さに関連がみられました。

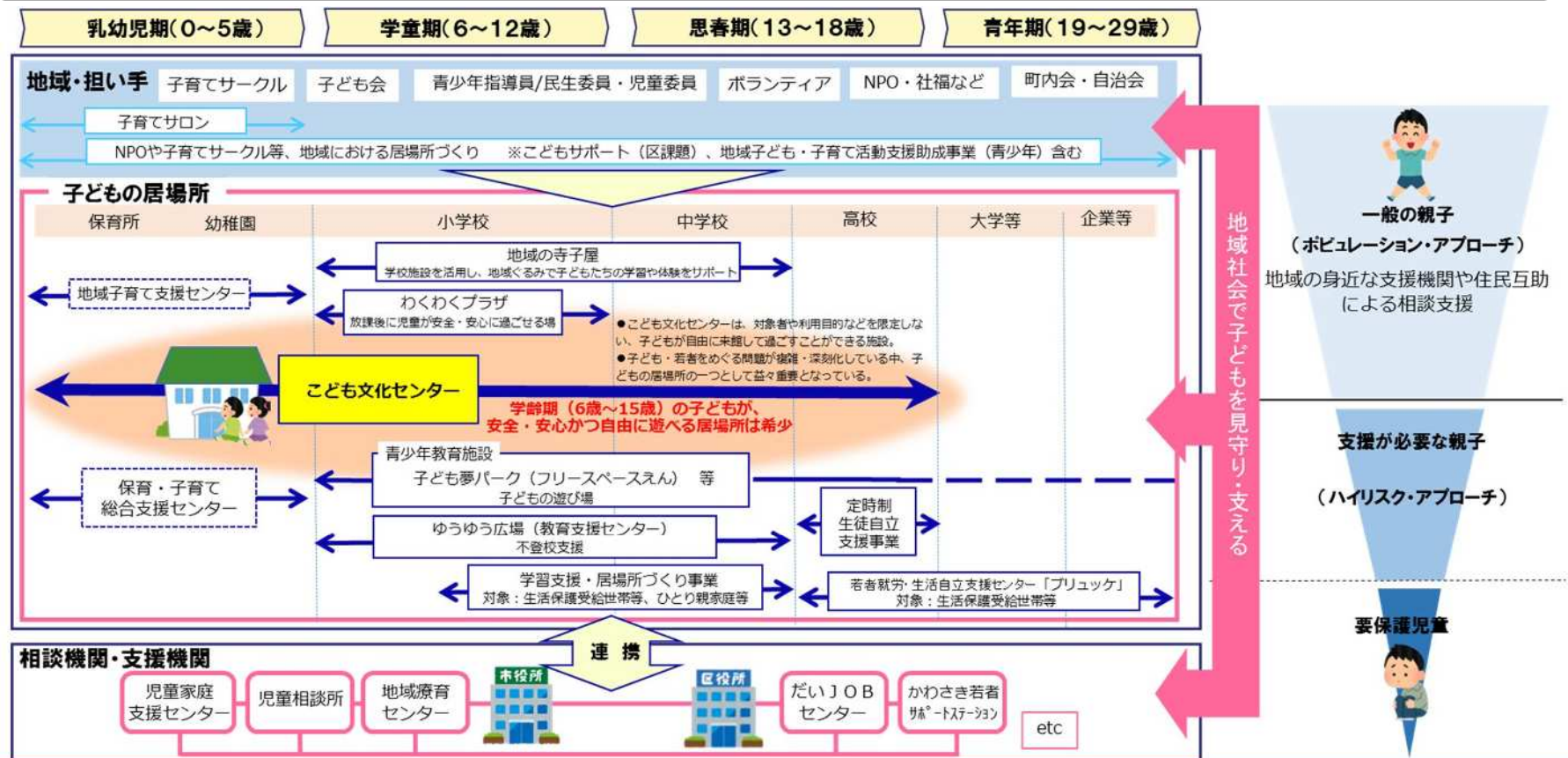


資料：内閣府 子供・若者の意識に関する調査（令和元（2019）年）

子どもの居場所と成長段階に応じた切れ目のない支援

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 核家族の増加や地域との関係の希薄化、共働き世帯の増加など子ども・子育て家庭を取り巻く環境が変化中、いじめや不登校、ひきこもり、児童虐待など、子ども・若者をめぐる問題は複雑・深刻化しています。
- 子ども・子育て家庭を孤立から守り、子どもが健やかに育つための居場所の必要性が一層高まっており、特に学齢期の子どもの居場所は希少となっています。



妊婦・乳幼児健康診査事業

概要 / 背景 / **取組** / 成果 / まとめ

妊娠前

- **特定不妊治療にかかる費用を一部助成**しています（令和4年度から保険診療適用）。
- 不妊・不育症で悩む方のため、**不妊・不育専門相談センター**を設置し専門医師と不妊症看護認定看護師による相談を実施しています。

妊娠

- 妊娠中の母子の健康管理に必要である**妊婦健康診査にかかる費用の一部助成**を行っています。14回分（上限89,000円）の健診の費用が対象です。

出産

- 3～4か月、7か月（10か月）、1歳6か月、3歳、5歳に**乳幼児健康診査**を実施しています。結果に応じて母子保健指導・相談事業等で支援を継続します。

- 乳幼児健康診査を受診していない方に個別に働きかけを行い、**受診勧奨**を行っています。

- 委託の乳幼児健康診査（3～4か月、7か月・10か月、5歳）の後に、**医療機関と連携**し、発育・発達や育児等に関して支援が必要な家庭に**継続的な支援**を実施しています。



乳幼児健診

母子保健指導・相談事業

概要 / 背景 / **取組** / 成果 / まとめ

思春期

- 市内の学校の生徒等を対象に、**学校保健と連携した集団での思春期教育**を行い、性や妊娠・出産、他者とのかかわり等について普及啓発を行っています。

妊娠

- **妊娠届出時に看護職が全員と面接**し、状況の確認を行い、必要時には妊娠中から個別の支援を行っています。

- 初めて出産する方とそのパートナーを主な対象として**両親学級**を実施し、妊娠中の健やかな生活や、安心して安全な出産、育児について夫婦で話し合ったり学習する機会をつくりました。

出産

- 出産後なるべく早い時期に**新生児訪問**及び**こんにちは赤ちゃん訪問**によって家庭訪問を行い、母子の健康や育児の状況について確認し、必要な情報提供や支援を行っています。

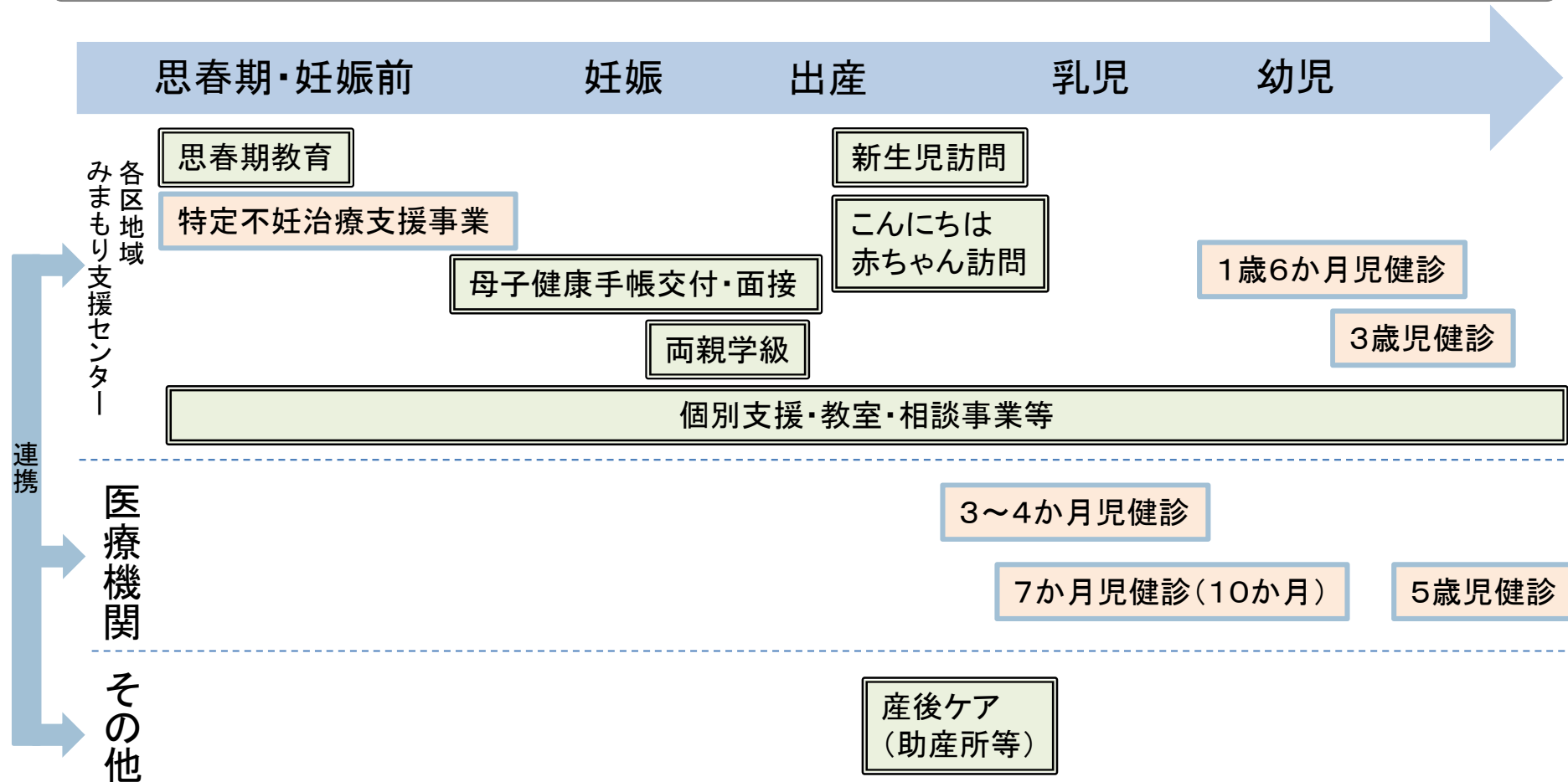
- 4か月未満の子がいる希望する母に対して**産後ケア**を実施しています。助産所への宿泊、来所または助産師が自宅に訪問する3つの形態があり、母体の体力回復や母体・乳児ケアを行います。



各事業と関係機関との連携

概要 / 背景 / **取組** / 成果 / まとめ

- **子どもがすこやかに成長できることを目的に、妊娠前から出産、育児期にわたり、関係機関等と協力しながら、様々な母子保健に関する事業を実施することによって、切れ目のない支援を行います。**



青少年活動推進事業

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

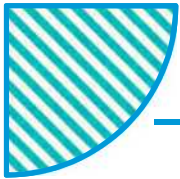
- 地域社会全体で子ども・若者を見守り支え、安全・安心な環境の中で青少年の健全育成を図るため、青少年を育成・指導する青少年関係団体を支援するとともに、次代の担い手となる自立した成人を育成するため、積極的な社会参加を促進しています。



若者の社会参加の入口「青少年フェスティバル」



「成人の日を祝うつどい」は、多くの青少年関係団体のボランティアの協力に支えられて開催しています。



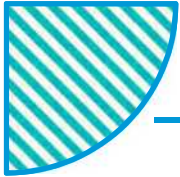
こども文化センター運営事業

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- 「こども文化センター」は、児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設として、児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進するとともに、情操を豊かにし、もって児童の健全な育成を図ることを目的としています。
- 感染症対策を講じた事業の推進により、昨年度に比べて利用者は回復傾向にあり子どもの多様な活動や体験を通じた児童の健全育成や市民活動の拠点としての活用を図っています。



開設日……年末年始を除く全日
開設時間……(月曜日～土曜日)9時30分から21時
(日曜日・祝日)9時30分から18時
利用対象……0歳から18歳未満の児童、児童福祉関係者
施設数／運営主体……58館／指定管理者(平成18年度から)



わくわくプラザ事業 ～小学生の放課後の安全な居場所～

概要 / 背景 / **取組** / 成果 / まとめ

- 「わくわくプラザ事業」は、放課後や土曜日・夏休みなどに、小学校施設を活用して児童の安全な居場所及び遊びの場を確保し、様々な文化・スポーツ活動などを通して、異なった年齢層の交流と仲間づくりを支援する事業です。

平成15年度から事業を開始しており、保護者の就労等の有無にかかわらず、小学1年生から6年生までのすべての児童を対象に、現在、市立小学校114校内で実施しています。

- 開設日……祝日及び年末年始を除く月曜から土曜日まで
- 開設時間……(学校授業日)授業終了時から18時
(学校休業日)土曜 8時30分から18時
平日 8時から18時 ※夏休み等
- 利用対象……当該小学校に在学又は学区内に在住する小学1年生～6年生までのすべての児童
- 費用負担……無料
※おやつ及び行事費など実施負担あり
- 運営主体……指定管理者等





わくわくプラザ事業 ～小学生の放課後の安全な居場所～

概要 背景 取組 成果 まとめ

【わくわくプラザ事業の充実に向けた取組】

- 多様化する子育て世代のニーズを踏まえた、事業の充実に向けた取組
開設時間の変更 ……8時から開設 ※夏休み等の長期休業日等
「学習タイム」 ……児童が学校の宿題等に取り組む時間を設置
メール配信 ……保護者との効率的な連絡体制の構築



青少年教育施設の管理運営事業

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

団体宿泊生活や野外活動を通じて心身ともに青少年の健全な育成を図るとともに、子どもの遊び、活動の促進に向けた場を提供します。

青少年の家(宮前区)



- 宿泊室・研修室・プレイホール・食堂・屋外炊事場・プールなどを設置
青少年のための団体宿泊施設として、団体の宿泊研修や発表の場を作るほか、親子向けの講座を実施
- 指定管理者: かわさき未来応援パートナーズ

黒川青少年野外活動センター(麻生区)



- 集会室・工作室・室内厨房・屋外炊事場などを設置
川崎市内で野外活動を提供できる場として、利用団体の支援を行う他、青少年の体験事業や指導者育成事業を実施
- 指定管理者: 特非)国際自然大学校

青少年教育施設の管理運営事業

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

団体宿泊生活や野外活動を通じて心身ともに青少年の健全な育成を図るとともに、子どもの遊び、活動の促進に向けた場を提供します。



子ども夢パーク(高津区)

- 全天候広場、スタジオ、交流スペース、プレーパークなどを設置
子どもたちに活動拠点・居場所を提供することで、ありのままの自分でいられ、自主的・自発的な活動ができるよう支援
- 指定管理者：川崎市子ども夢パーク共同運営事業体



八ヶ岳少年自然の家(長野県富士見町)

- 35万㎡の広大な敷地に、宿泊棟・アストロハウス・ワーキングホール・食堂・屋外炊事場・キャンプ場などを設置
川崎市内では少なくなった自然の中で子どもたちが自主性をもって活動できるよう支援
- 指定管理者：(一社)富士見パノラマリゾート

コロナ禍における子どもの居場所の確保

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- 新型コロナウイルス感染症の影響下においても、利用者に対して感染防止対策に関する案内を徹底するなどの対策を講じた上で、運営継続に努めました。
- 特に、全わくわくプラザ、こども文化センターの一部、子ども夢パークでは、令和2年3月から5月にかけての全国一斉休校、緊急事態宣言発出下においても運営継続して、子どもたちの居場所を確保しました。
- オンラインの活用や地域団体等との連携による行事を企画し、実施するなど新しい生活様式を踏まえた遊びを通じた交流や体験活動を実施しました。



成果指標①の達成状況(目標未達成)

①乳幼児健康診査の平均受診率

- 平成30年度は96.7%、令和元年度は96.1%、令和2年度は97.8%、令和3年度は96.0%(見込み)と、目標値に近い割合で推移していますが、**未達成**の年があります。

【乳幼児健康診査の平均受診率】

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
目標値(%)	97.3	97.3	97.3	97.3
実績値(%)	96.7	96.1	97.8	96.0(集計中)
達成率(%)	99.4	98.8	100.5	98.7(集計中)

成果指標①の成果分析

①乳幼児健康診査の平均受診率

- 未受診者には個別に連絡して理由を確認しており、主な理由は、海外滞在、長期入院等こどもの体調、長期里帰り、就労等保護者の事情です。
- 新型コロナウイルス感染症の流行後、1歳6か月及び3歳児健診の受診率は増減しているものの、3～4か月児健診の受診率は微減しており、新型コロナウイルス感染症の影響により出産後の長期里帰りが増加したことによるものと思われます。
- 令和2年度の1歳6か月児及び3歳児健康診査の受診率が高いことの主な理由としては、新型コロナウイルス感染症の流行が始まったことによって令和元年度末に受診しなかった方が、令和2年度に受診したことによるものと考えています。

【健診ごとの受診率】

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
3～4か月児健診(%)	96.9	97.4	96.5	96.4(集計中)
1歳6か月児健診(%)	97.3	96.8	98.4	96.7(集計中)
3歳児健診(%)	95.8	94.2	98.6	95.1(集計中)

成果指標②の達成状況(目標未達成)

②子育てが楽しいと思う人の割合

- 1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査の問診票で「子育てが楽しい」「大変だが子育ては楽しい」と回答した人は、96.6%～97.1%とわずかに目標に届かない割合となっていますが、その割合は平成30年度以降増加傾向です。

【子育てが楽しいと思う人の割合】

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
目標値(%)	97.6	97.6	97.6	97.6
実績値(%)	96.6	96.7	96.9	97.1
実数 (楽しい・大変だが楽しい 回答数/全受診者数)	13,083/13,539	12,683/13,115	12,296/12,685	11,817/12,175
達成率(%)	99.0	99.1	99.3	99.5

成果指標②の成果分析

②子育てが楽しいと思う人の割合

- 乳幼児健康診査での問診では、複数の選択肢を示して育児の状況を確認しており、「楽しい」「大変だが育児は楽しい」以外の選択肢を選んでいる場合には状況に応じて理由を確認しており、主なものに、こどもの発育・発達に関する心配や育てにくさ、保護者自身の心身の問題、家族関係・経済状況などの家庭状況があります。
- 乳幼児健康診査等において育児状況を確認し、フォローが必要な場合は面接・訪問等の個別支援や、こどもの発育・発達の確認を継続して行う教室や保護者同士の話し合いの場などにつなげるなど、育児負担の軽減や孤立予防の取組を行っており、これらが育児が楽しいと感じる人の増加につながっていると考えています。
- 委託の健康診査においては、医療機関で育児状況を確認し、その後の連携によって支援が必要な場合は各区役所地域みまもり支援センターから個別に連絡を行ってフォローを実施しています。

【1歳6か月児健康診査での問診】 ～お子さんと一緒に生活はいかがですか？（複数選択可）～

- | | | | |
|----------|---------------|------|-------------|
| ①楽しい | ②大変だが育児は楽しい | ③疲れる | ④よくイライラしている |
| ⑤気分が落ち込む | ⑥子どもをかわいと思えない | ⑦その他 | |

成果指標③の達成状況(目標未達成)

③わくわくプラザの登録率

- 「わくわくプラザの登録率」については、平成30年度は48.8%、令和元年度は49.6%と、目標値を上回る値で順調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大後の令和2年度は36.2%、令和3年度は33.8%となり、目標値を下回りました。

【わくわくプラザの登録率】

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
目標値(%)	48.7	48.8	48.9	49.0
実績値(%)	48.8	49.6	36.2	33.8
達成率(%)	100.2	101.6	74.0	68.9

成果指標③の成果分析

③わくわくプラザの登録率

- 令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「やむを得ない事情で自宅にお子様を見守る方がいない家庭の児童」のみに利用対象を絞り込んだことが、わくわくプラザの登録率が下がった原因だと考えられます。
- 令和3年度を通じた登録率は新型コロナウイルス感染症の影響により目標値49.0%を下回りましたが、四半期ごとの推移を見ると4月:31.7%、7月:33.8%、10月:34.2%、1月:34.5%と徐々に回復傾向にあります。
- 感染症対策を講じたうえで事業を推進することで、全ての小学生の安全・安心な放課後の居場所として、一定の役割を果たしています。

【わくわくプラザの登録率】(令和3年度)

	4月	7月	10月	1月	年間
登録者数	23,370人	24,924人	25,241人	25,494人	24,956人
対象者数	73,781人	73,756人	73,810人	73,797人	73,789人
登録率	31.7%	33.8%	34.2%	34.5%	33.8%

成果指標④の達成状況(目標未達成)

④わくわくプラザ利用者の満足度

- 「わくわくプラザ利用者の満足度」については、令和元年度アンケート調査における各質問項目の平均値は7.6となり、目標値を上回りましたが、令和3年度は7.5となり、目標値を下回りました。

【わくわくプラザ利用者の満足度】

	前回 (R1)	今回 (R3)
目標値	7.5	7.7
実績値	7.6	7.5
達成率 (%)	101.3	97.4

成果指標④の成果分析

④わくわくプラザ利用者の満足度

- 当該アンケート調査は、経年変化を正しく把握するため、2年に1回、同一の質問項目により、同じ母数(2,000人)で実施しています。
- 今回のアンケート調査実施時には、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「やむを得ない事情で自宅にお子様を見守る方がいない家庭の児童」のみに利用対象を絞り込んでおり、「すべての小学生」が利用可能であった前回までの調査結果との比較において、各項目ともにコロナ禍の影響がでているものと考えられます。
- 項目ごとの平均値を見ると、「提供されるプログラム」の満足度が、感染症対策のため活動が制限された影響を顕著に受けて下がっている一方、徹底した感染対策等を講じたことにより、「事故防止」の満足度がわずかですが上がっています。

【主な項目ごとの平均値】

	提供されるプログラムは工夫されていると感じるか	提供されるおやつは工夫されていると感じるか	事故防止について配慮されていると感じるか	全項目の平均値
今回(R3)	7.3	6.6	7.4	7.5
前回(R1)	7.6	6.5	7.3	7.6
増減	-0.3	+0.1	+0.1	-0.1

その他成果(数値で把握できる補足指標)

概要 / 背景 / 取組 / **成果** / まとめ

産後ケア事業の利用人数

- 出産後4か月未満の乳児とその母親を対象に、助産所への宿泊・日帰り、または自宅への助産師の訪問によって母体の体力の回復の促進や母体・乳児のケアを行っています。
- 出生数は減っているものの、産後ケア事業の利用者数は増加しており、背景には晩産化等によるケアが必要な母の増加や、新型コロナウイルス感染症の影響により、祖父母等の支援が受けられない方の増加等があると考えています。
- また、宿泊型・日帰り型・訪問型のいずれも増加していることから、各種別により対象者の状況やニーズに合った方法でケアの実施をできていると考えています。

【産後ケア事業利用者数の推移(延べ件数)】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
宿泊型	818	1,031	1,117(見込み)
日帰り型	131	167	268(見込み)
訪問型	452	634	769(見込み)
合計	1,401	1,832	2,154(見込み)

その他成果(数値で把握できる補足指標)

こども文化センターの利用者数(延数)

- 平成30年度は1,830,474人、令和元年度は1,657,514人とやや微減でしたが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、717,694人と利用人数が大幅に減少しています。
- 令和3年度は1,128,093人と、新型コロナウイルス感染症の影響下においても新しい生活様式を踏まえた遊びを通じた交流や体験活動を実施するなどにより、回復の傾向が見られます。

【こども文化センターの利用者(延数)】

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
利用者(延数、人)	1,830,474	1,657,514	717,694	1,128,093

その他成果(定性的な成果)

乳幼児健康診査未受診の方と要支援者へのフォロー

- 乳幼児健康診査(3~4か月、1歳6か月、3歳)を受診していない方については、訪問・電話等により個別に体調等の確認と受診勧奨を行っています。勧奨時に居住実態が確認できない方については、関係機関からの協力を得て、海外への出国確認や医療機関での受診状況等を確認しており、最終的にすべての方の安否が確認できています。
- 健診等でフォローが必要と思われる方には、状況に応じた各種相談・教室事業や個別の支援により、心身の発達・発育状況を確認し、助言や専門機関の紹介等を行っています。それらの支援が、育児不安・孤立などを防止し、楽しく育児をすることにつながっていると考えています。

◆乳幼児健康診査の未受診により勧奨対象となった1,944人の状況(令和2年度)

勧奨後に受診	654名(33.6%)
受診せず	1,290名(66.4%)

未受診の理由は海外滞在、長期入院等こどもの体調、長期里帰り、就労等保護者の事情等です。

未受診の方にも電話や訪問、関係機関への聴取等により発育・発達、育児状況の確認を行っています。

◆乳幼児健康診査後の主な相談・教室事業

育児相談	保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士等による相談対応
乳幼児特別相談	小児科医による心身の発育・発達に関する診察と個別相談
発達相談支援教室	精神発達で要観察とされた児と保護者の集団遊び、観察・助言
幼児相談	精神発達面に遅れや課題があると思われる児の個別相談

その他成果(定性的な成果)

概要 背景 取組 成果 まとめ

わくわくプラザ職員の資質向上

- わくわくプラザ事業等に従事する職員の資質向上のため、全20回(R3年度実績)にわたり、様々なテーマで「資質向上研修」を実施し、延べ1,943人(R3年度実績)の職員が参加。
- 主な研修テーマ・・・児童健全育成論、中高生への関わり方、特別な配慮が必要な児童への対応、保護者・家庭との連携、子どもの権利、LGBTQ、不登校児対応、野外活動、応急手当、アレルギー対応



コロナ禍におけるわくわくプラザ事業

- 令和2年3月から5月にかけて、全国の小学校が一斉休校となった際にも、わくわくプラザは小学校と連携の上、「やむを得ない事情で自宅にお子様を見守る方がいない家庭の児童」のみに利用対象を絞り込み、基本的な感染対策を徹底した上で運営を継続することにより、子どもたちに安全・安心な放課後の居場所を確保し、いわゆるエッセンシャルワーカー等の家庭を支え続けました。

施策の達成状況

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

施策の達成状況

B 一定の進捗があった

(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

理由

- 乳幼児健康診査及び子育てが楽しいと思う人の割合はそれぞれ目標値を下回っていますが双方高い水準を維持しています。乳幼児健康診査の未受診者に対しては、電話・訪問等により受診勧奨を積極的に行うことで、乳幼児や家庭の状況把握も行うことができています。未受診者フォローも含めた妊娠期からの母子保健事業の実施により、子育てを楽しみ感じられる環境づくりや要支援者の把握と支援につなぐことができています。
- 「わくわくプラザ事業」でも、新型コロナウイルス感染症の影響で利用登録を控えた方が多く、わくわくプラザの登録率が目標を下回りましたが、四半期ベースで見ると徐々に回復傾向にあり、感染症対策を講じた事業推進が図られており、全ての小学生の安全・安心な放課後の居場所として、大きな役割を果たしているものと捉えています。

【施策の達成状況区分】

A 順調に推移した(目標を達成した)、B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

C 進捗が遅れた(1期策定時を下回るものが多くあった)、D 進捗は大幅に遅れた(1期策定時を大幅に下回った)

施策の達成状況

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / **まとめ**

施策の達成状況

B 一定の進捗があった

(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

理由

- 「こども文化センター事業」及び「青少年教育施設の管理運営事業」は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者の外出自粛の傾向があり、また施設として開館時間の短縮、定員の設定、イベント制限などの措置を行ったことにより、利用人数は目標を下回りましたが、いずれも昨年度に比べると数値は回復傾向にあり、感染症対策等を講じた事業推進により、それぞれ児童の健全育成や市民活動の拠点、及び青少年の健全育成の場として、活用が図られていると捉えています。
- 「青少年活動推進事業」は新型コロナウイルス感染症の影響による青少年フェスティバルの中止や成人の日を祝うつどいの運営体制の見直しにより目標値を下回りましたが、コロナ禍においても青少年によるサポーター・実行委員会や団体等の活動を工夫しながら継続することで、青少年の健全育成や社会活動への参加促進を行うことができています。

【施策の達成状況区分】

A 順調に推移した(目標を達成した)、B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

C 進捗が遅れた(1期策定時を下回るものが多くあった)、D 進捗は大幅に遅れた(1期策定時を大幅に下回った)

施策の今後の方向性

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

今後の方向性

Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

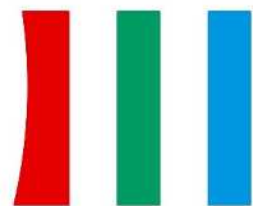
理由

- 妊婦・乳幼児健康診査事業及び母子保健指導・相談事業においては、ほぼ目標どおりに事業が進捗しているため、引き続き事業の推進を図ります。
- 妊娠・出産期から乳幼児期までの切れ目のない支援に向け、引き続き相談支援体制や周知方法の充実を図っていきます。
- こども文化センターについては、青少年の健全育成事業を実施するとともに、今後も多世代が相互に交流することにより、子どもたちが互いに支えあうことを学びながら育ち、地域の一員として主体的に活動していく力を培うための環境づくりを推進していきます。
- わくわくプラザについては、全ての小学生の放課後の居場所と多様な体験を通じた心身の成長に大きく貢献しており、子育て家庭のニーズを踏まえた充実に向けて取組を進めます。

【今後の方向性区分】

I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

Ⅲ あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、Ⅳ 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市